

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	社会福祉法人パートナーグループホームハートの 家伍番館2階ユニット	評価実施年月日	平成19年11月10日
評価実施構成員氏名	関塚 摩周 伊藤 美深 牧野 恵子 本間 麗子 塚本 葉子 新山 秀子 稗田 麻希子		
記録者氏名	国柄 幸恵	記録年月日	平成19年11月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

□ は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念第1項目の「慣れ親しんだこれまでの生活が営まれる暮らしとケア」の実践を地域の関わりを含め入居者様個人を尊重しながら取り組んでいる。	○	地域との繋がりをより一層深めて行く事を理念に含めていく事を準備中である。
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員は常に理念を念頭に置きケアに取り組んでいる。		常に見えやすい場所に掲示し職員一人ひとりへ配布している。
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族への理念説明は入居契約時にご説明している。ホームパンフレット、入居契約書内にも掲げている。地域に向けては、隔月発行の地域向け「ハートの家伍番館便り」第1号に掲載しており、地域の方が利用する商店や近くのマンション掲示板などに掲示していただいている。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	夏祭りや、敬老会などを通して隣近所と交流ができ始めている。また近所の商店や美容院などを利用する事で馴染の関係が構築できつつある。近所の方より自宅菜園で出来た野菜を頂き、入居者の方がホームでの手作り品をもって直接お礼に伺ったりしている。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老会・クリスマス会等の行事には地域の方がボランティアとして参加して下さっている。</li> <li>・今後はより多くの地域の方が出入りしやすいように環境づくりを行い働きかけていく</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ホームのある町内会は地域住民の高齢化ということもあり、町内の活動維持も困難な側面があり、町内会独自の行事への参加は出来ない状況にあるが、よさこいソーラン祭り際は、離れた地域ではあるが理解をして頂き、交流を持つ事が出来た	○	入居者の方が参加できる行事や施設などの地域資源を発掘し、可能な限り地元住民の方と交流して行きたい
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内向けのホーム便りの中でホームで実践している夏ばて予防や健康法などを紹介し地域の方に役立てていただいているようにしている。		地域の方のご家族の介護相談などや匿名での電話の困りごと相談など件数は少ないが行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	○	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	<p>全ての職員が成年後見人制度利用の為に必要な書類や手順など理解出来るように研修など実施して行きたい。ご家族の中で研修講師を引き受けていと申し出されている方がいることもあり、早期の実施に向けて取り組みたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	○	<p>今後順次高齢者虐待の研修に職員を出す事また法人内での研修でも取り上げていけるよう働きかけていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	一対一で話せる機会を増やし意見・不満・苦情を話せる環境づくりを心がけそれを反映できるように管理者、職員が話し合っている。	○	入居者の方の不満をご家族含め担当医などと状況に応じて関連機関を交え解決への取り組みを行っている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に1回のホーム便りを家族へ発送し金銭管理は預かり金の出納簿と領収書を添付し明確に行っている。又特変事にはその都度報告し家族の意向などその他相談して対応している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームにご家族が来訪された際日頃の様子を伝え、話しやすい環境作りを心がけ「何かして欲しい事はありますか？」など確認している。	○	意見箱の設置、苦情相談窓口の担当者を掲示している。今後の取り組みとして職員とご家族がもっと気軽に話せる機会を作って行きたい(どうしても、ご家族側に遠慮がある様子)
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度話し合い検討している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	定期的受診、緊急受診、外出などの行事など人員配置の調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	・職員の異動は少ない。また各ユニット間のスタッフが日常生活の中で相互のユニットを行き来する場面(双方の入居者と一緒に)を設け馴染の人間関係作りと生活空間の拡大に努めている。 ・馴染の職員が離職した場合継続して支援できるよう精神面での支援を重視している。	○	職員は該当ユニットだけでは無く相互のユニットの入居者全員の状況把握をしケアできるよう情報の共有をもっと行っていく(全職員が全入居者対応が出来るように取り組む)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	外部への研修へ出している。	法人内で各事業所より研修委員を選出し外部より講師を招き今年2回法人内大研修を実施残り1回を予定している。またその他外部研修も職員の希望や適任職員が参加し合同ミーティング等で伝達講習を行っている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	法人内での事業所とは合同行事などを通じて情報交換できる場面の設定をしている。	○ 法人外の近隣のグループホーム等ともしっかりと交流できる機会を設けて行きたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	・法人内での運動サークル参加呼びかけや、飲みやけーションの場のセッティングを行っている。	○ ストレスについて、個人差があり、個別のストレス管理は課題が多く今後検討し取り組んで行く。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	キャリアに合わせた研修への参加や資格取得への支援を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	本人が困っている事や不安な事を具体的に話せる場合は本人が納得安心できるように話を聞き受け止めより良い方法を一緒に考えている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	認知症を抱えてしまった家族の立場に立ち「初めての経験」の戸惑いや不安を受け止める事から始めている。又家族のそれまでの介護生活を認め労うことを行うよう心がけて居る。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時点で広い視野に立ち多くの選択肢を持つ事に留意している。必要時他の機関と連携をい行う。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居契約以前に必ず本人に来ていただき納得・了承を得てサービスを行っていたい。また初期ケアでは住み替えのダメージを考慮し支援している。出来るだけ馴染の家具や物品を持ってきていただき今までと出来るだけ変わらない生活をして頂いている。(馴染の茶碗昨日まで寝ていた布団など)	○	これまでの生活暦を知り、よりその人らしい生活が出来るように取り組んでいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の方と職員と一緒に過ごすことで信頼関係を築きながら料理や裁縫や歌などを教えていただいたりしている。		入居者の方の歩んでこられた時代背景を若い職員が苦労話と共に教えていただいている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・行事への参加の呼びかけを行い一緒に参加していただいている。 ・体調急変時などはご家族と連絡を取り合いご本人の不安を軽減できるよう取り組んでいる。		病気の早期治療に関して毎日の受診・治療などご家族の協力を得て取り組んでいる。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	これまでの関係に配慮しながらより関係作りに向けて取り組んでいる。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族・親類以外の訪問は無い	○	入居者の方が、誰と会いたがっているのかを知り、ご家族の意向などに配慮し支援して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・入居者同士で、調理を楽しまれたりしており、入居者間の関係作りの場の提供を支援している。 ・体調の悪い人等を皆で心配し手助けが出来るよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	・持病増悪での退去者について合いたい人への支援を行ったり、こちらで可能な支援をしている。 ・他の事業所へ移られた後も状況把握を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、ご家族と話し合い意向に沿うよう努めている。困難な場合は本人にとっての最善な事を話し合い実現に向けて取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族来訪時に過去の生活の様子など聞き職員間で情報の伝達を行いその人らしい生活の場の提供に努めている。		・その方が暮した土地の言葉を勉強し馴染の言葉でのコミュニケーションを心がけている。 ・センター方式の活用
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別記録。介護計画への一人ひとりの変化を記録した職員間で申し送りを行うことで情報の共有をはかり、この状況にあったケアの実践に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・本人の言葉から課題を設け、ケアに取り組んでいる。 ・月に1回検討会を開き介護計画を作成の為の評価を行っている。 ・家族訪問時や介護計画説明時に家族希望の確認を行っている。 ・ケアマネージャの配置を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・毎月の評価を行い介護計画の見直し時に反映させている。 ・入院やその他の変化時には随時介護計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・個別記録の記入と気づきシートを作成し情報の共有を行っている。		緊急性の高い気づきについては、緊急に話し合い検討を行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・法人内の特定入居者施設やディサービスなどと連携を図り家族支援を含め取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・月2回の社交ダンスと行事のボランティア ・消防署からの協力		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	頻度は多くないが、訪問看護事業所や医療ソーシャルと連携しより良い生活支援に取り組んでいる。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議での相談ごと以外特に無い		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	全ての入居者には担当医がついており、変化時には連携し適切な指示を得ている。		受診時には生活の様子など現状の報告を行っている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	担当医との連携の中で専門医への紹介を得たり、家族との相談の中で専門医を受診し感経を築いている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院はもとより、受診先の看護師は認知症について理解があり、受診時も配慮してくれており、相談も快く受けてくれている。日常の健康管理にも協力できである。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合については、情報交換を行い早期の退院に向け取り組んでいる。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時のご家族希望の中で重度化・終末期を含め希望を聞いている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の希望やご家族、医師の意見を聞き取り組んで行くように考えているが検討段階である。	○	終末期ケアへの取り組みとして、職員のスキルアップやご家族や医療機関との協力体制を進めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>・入居時には出来るだけ多くの情報を関係機関からやご家族からも頂き防止に努めている</p> <p>・退去時には介護添書などにホームでの生活の様子や留意して欲しい事など記入情報提供を行い住み替えによるダメージに役立ててもらおうよう支援している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者の方の生活暦などからその人にとってより良い声かけや対応をする事でプライバシーを損ねたり、羞恥心に配慮している。</p>	○	<p>介護している側・されている側の関係の中での陥りやすい力間系など職員が理解し支配的にならない様今後も取り組んでいきたい</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>・どうして欲しいのか？の希望が聞かれない入居者の方へは引き出す努力をしている。・本人の希望が将来的に本人にとって不利益となる場合については、本人やご家族を巻き込んで話し合い納得していただいている。</p>		<p>自己実現・自己決定については法人内での管理者会議でも学習の場を持ち職員への資料配布と伝達をおこなっている。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>・一人ひとりの生活ペースに合わせるよう心がけているが全ての入居者の希望には添えていない。</p>	○	<p>入居者の方の希望の引き出し方を工夫し、より多くの入居者の方に満足していただけるよう支援して行きたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>・本人の好きな化粧品や衣類を一緒に買いに行っている。</p> <p>・買い物に行きたがらない入居者の方にはカタログを見ながら選んで頂いている。</p> <p>・馴染の美容室へいたり、訪問の理美容を利用していただき本人の好きな髪型をして頂いている。</p> <p>・希望により髪染めも行っている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>・入居者の方と一緒に食事作りをしたり、食事作りを行い楽しめる雰囲気作りに努めている。</p>		<p>食事作りの中で味付けや作り方、役割分担でトラブルが起こる場合も多々あるため意欲を失わないように介入しながら調整している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・飲み物やおやつなど個人の好みのものを準備しちている。 ・タバコや飲酒については現在希望されている入居者の方はいない。		入居者の方の中にはカロリー制限の必要な方も居り医師の指示に従い本人と相談しながら必要時家族の協力を得て支援している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・本人の排泄リズムに合わせて支援している。 ・現在オムツ・パット類を常時使用している方は居らず外出などの状況に応じて使用している。 ・排泄の失敗を軽減する為適時の声かけや誘導を行い失敗時にも羞恥心に配慮しながらケアを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・一応の入浴の入浴の曜日と時間の取り決めが有るが本人の体調や希望によって柔軟に対応している ・入浴されている時はゆったり楽しめるよう本人ペースで入浴していただいている。		・現在夜間の入浴を希望される入居者の方は居らず夜間の入浴は実施していない。 ・大きなお風呂で入浴したいという希望にこたえるため併設のディサービスの大浴場を借り温泉気分を味わっていただけける日も設けている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・日中の活動量や疲労度によって休息の声かけをし休息していただいている。 ・自室で休息される方以居間のソファで休息されたり、本人の好きな場所で休息できるよう支援している。 ・日中の活動を行っていただく事で適度な疲労感を得て入眠していただけるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・調理や食事後片付け掃除などの役割を果たす事や自分の身の回りの事を職員と一緒にやることで意欲的な生活と人の役にたっている喜びを感じていただいている。 ・今まで意欲の低下が見られた入居者の方も根気良く関わりを続けることで意欲的な生活が出来るようになってきている。	○	ご本人の潜在的な能力の把握をし引き出す取り組みを行いたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・お金を管理できる方はご家族様了解のもとで自己管理されている。 ・自分で管理できないも買い物時、職員が介助しながらレジでお金を支払っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・買い物や、受診、散歩などで外にでる機会を増やしている。	○	・本人の望まれる場所へ一人ひとりがいけるよう取り組みたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	・年1回、温泉1泊旅行を計画し家族と共いけるよう取り組んでいる。 ・花見や紅葉見物の為少し離れた公園へ出かけている。 ・墓参りや法事などご家族と一緒に出かけている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	随時電話や手紙の支援を行っている		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や親類などが訪問された時に湯茶をお出ししゆっくり過ごされるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・現在言葉での抑制を含め取り組んでいる。 ・身体拘束は行っていない		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・居室の施錠は行っていない(希望時は行う事もあるが緊急時には外から空けられる鍵になっている。) ・玄関の施錠は夜間防犯上のみの施錠で日中は施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・夜間居室内での転倒事故の危険がある方について居室の環境整備や排泄リズム行動の把握をし医師との連携によりリスクの軽減に努めている。 ・夜間は安否確認の為定期的の見回りを行い、日中も一人ひとりの行動把握を行い確認している		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・入居者の方一人ひとりの能力に合わせて何が危険かを考え取り組んでいる。 ・注意の必要な方には職員と一緒に使用する事で事故に繋がらないように支援している		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・入居者一人ひとりの状況に応日常生活での対策を含め事故防止に努めている。		緊急対応マニュアルを作成し見える場所に掲示し対応できるようにしている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時は担当医と連携し対応している。	○	救急救命の講習を全ての職員が受講していないので順次講習できるようにしていく
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・防災計画を作成し防災訓練を実施している。 ・広域避難所・収容避難所場所については、掲示し周知している。	○	・防災訓練への参加を呼びかけ参加して頂けるよう取り組んで行く ・町内での一人暮らしの方を把握し、災害時の安否確認など協力出来る事をして行ける様に取り組んで行く。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	・入居者の方一人ひとりの起こりうるリスクについてはリスクマネジメントを作成しご家族へ説明している。 ・日常生活でさり気なく支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	些細な変化も職員間で確認をし早期の発見に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服薬については、医師の指示に従っている。</li> <li>・薬の変更があった場合職員は必ず伝達をし、変更後の体調の変化有無の確認を行い医師への報告を行っている。</li> <li>・副作用についても理解し副作用による危険については予め医師へ確認し事故防止に努めている(血糖降下剤・降圧剤など)</li> </ul>		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排便困難者については、医師と連携し取り組んでいる。</li> <li>・必要に応じて医師指示下の下剤による排便コントロールを行っている。</li> <li>・日中の活動量を多くし排便がスムーズに行われるよう支援している。</li> </ul>		食物繊維の多いものを取り入れたり、飲み物の工夫を行い出来るだけ薬に頼らない支援を行っている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアを行い必要な方には口腔内を確認し磨き残しが無い様支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養の偏りの無い献立を工夫している。</li> <li>・食欲低下時には医師へ報告し栄養状態の確認や食事提供のアドバイスを得ている。</li> <li>・気温や入浴、運動量にあわせて水分を取っていただき、脱水予防に努めている。</li> </ul>		発熱時の脱水傾向などでは、本人の摂取しやすい水分の工夫や好みの飲み物の提供を行っている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内の研修参加や、感染予防マニュアルを作成し取り組んでいる。</li> <li>・季節ごとの感染については、行政からの感染対策などの注意呼びかけ資料を配布している。</li> <li>・入居者・職員とも嗽手洗いの励行。</li> </ul>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・台所・調理用具の消毒を行っている。 ・常に冷蔵庫は掃除を行い長期の食品保存は行っていない。 ・冷蔵庫内の温度を上げないように温かいものは荒熱をとり保存している。 ・鮮度が落ちないように食材の買い物は長期の買い溜めをしない。		食事の残りを居室に持ち帰る方については、時間を見て本人に納得了承を得て廃棄している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関回りにはプランターを置いたりベンチを置いているが気軽に立ち寄り人はいない。	○	気軽に立ち寄る事が出来るように工夫していく
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間等の共用空間に季節の装飾をし、季節の花など生けて季節感を感じていただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にはソファや好みの椅子を点在させる事により気の合う入居者同士が談笑されたりしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご家族と相談をし馴染んだ家具や愛着のある物品を持っていただいている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・温室時計を置き温度の調節を行っている。 ・調理・清掃時は換気を行い気になる匂いや埃が残らないように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	・廊下やトイレ浴室には手すりを設置している。	○	トイレ前・居室入り口などにスロープが付いており、撤去困難な為手すりの設置など検討していく。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・出来る事、出来ない事を見極めスタッフが統一したケアを心がけている。 ・食事の食べ方など躓きの多くなってきた場合は職員が動作を先にさり気なく示し支援している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・菜園やプランターでの野菜や花作りを行っている。 ・玄関脇にベンチを置き天気の良い日はお茶などを飲みながら過ごしている。	○	ベランダは洗濯物を干すことにしか使われておらず工夫が必要である。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>入居者の方の意志を尊重し、耳を傾けまたご家族より生活暦など情報を頂きその人らしい生活をして頂けるよう努力している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>○①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>入居者の方と一緒に歌を歌ったりユニット内の装飾などアドバイスを頂きながら一緒に行っているまた食事作り等も料理好きの方と一緒に野菜を切ったりしながら知恵を頂きながら一緒に行っている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>排泄の失敗への配慮の為トイレ誘導を行う他はご本人ペースでの生活を送っている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>入居者の方から感謝の言葉が聞かれたり、笑顔が多く見られている。以前は体を動かす事に消極的だった方が自ら体操を行ったり、意欲的に職員を手伝う姿や役割を果たす姿が見られている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>なるべく希望に添えるように近くのスーパーや公園散策へ出かけたりし楽しまれている。また引きこもりがちだった方が通院をきっかけに戸外へ出れるようになったり職員と一緒に食事の買出しが出来るようになった事は大きな成果である。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>入居者の方の些細な変化も見逃さず病気の早期発見に努め入院せず病気治療が行われた。常に日頃の様子を確認しながら支援している。又不安を訴えられる方に対して本人やご家族と一緒に取り組む事で安心していただけている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>その時々状況に応じて職員間で話し合う事はもちろんであり、本人とコミュニケーションを取りながら不満や要望を引き出し可能な限り安心した生活が送られるよう支援一つ一つ解決している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ○②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>古くから入居されている方のご家族とは来訪された折に近況報告を行ったり時には電話などで近況報告を行い信頼関係を築けている。入居間もないご家族に関しては不安な事や希望を聞きながら安心していただけるよう配慮し信頼関係の構築に努めることで安心していただいている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ○②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>地域の方が訪れてくる事は無いが月に2回ダンスを教えてくれるボランティアの方が来たりご家族は最低でも月に一度来ている。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている  ○②少しずつ増えている  ③あまり増えていない  ④全くいない</p> <p>運営推進会議での地域の人からの参加はご不幸があり無かったが、運営推進会議開催までの準備段階で地域のかたと直接お話しする機会が増え、労いの言葉や理解していただける関係が出来つつある。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が  ○②職員の2/3くらいが  ③職員の1/3くらいが  ④ほとんどいない</p> <p>困難な事に直面した時など自問自答し、気分がめいる事もあるが、職員同士助け合い話し合うことで意欲を持ってはたく事ができている。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が  ○②利用者の2/3くらいが  ③利用者の1/3くらいが  ④ほとんどいない</p> <p>全ての入居者様より感謝の言葉や労いの言葉を頂きおおむね満足していただけていると思う。不満についてもご本人が直接職員に話して下さるので早い段階で本人と一緒に話し合い解決できている。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が  ○②家族等の2/3くらいが  ③家族等の1/3くらいが  ④ほとんどいない</p> <p>ご家族が来訪された時には日々の生活の様子や身体的な様子など報告し感謝の言葉を頂き笑顔で帰られている。また今まで出来なかったことが出来るようになった時には職員と一緒に喜び合っている。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)・・・本人が、ご家族が認知症という病気を抱えた事の戸惑いや不安を共有し、少しでも安心して暮していける事を本人・ご家族へ支援して行きたいと思っている。また認知症だからという捉え方に止まらず、入居者の方個々の生き方や人格を尊重し、生きている甲斐のある生活支援を取り組みたいと考える。法人内のグループホーム内でのケア実践の中から自然発生してきた「最後まで自分の口と手で物を食べる最後まで排泄はトイレで這ってでも自分でする」というスローガンをここ『ハートの家伍番館』でも職員とご家族とそうしてご本人と共有して行ければと思っている。